

健康の見える化について

～ 衛生管理も見える化しよう！～

安全管理を優先していて
衛生管理は不十分かも...？



皆様、「見える化」という言葉をご存じでしょうか？

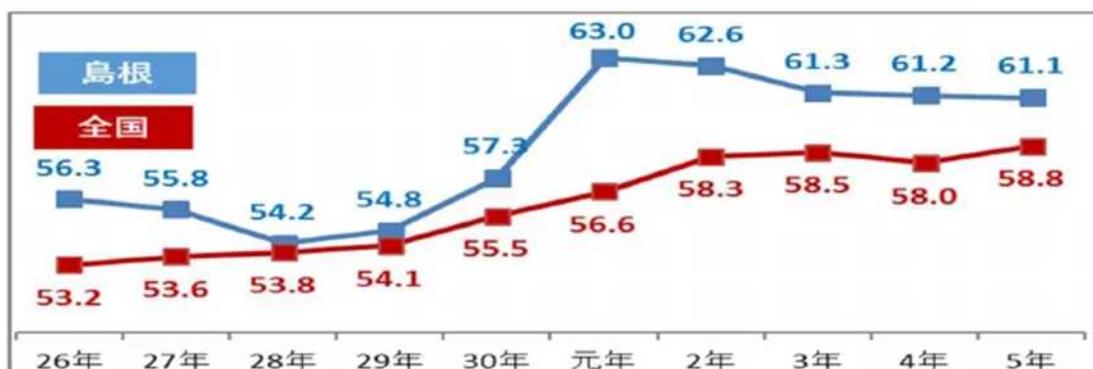
「見える化」とは、視覚的に捉えられない事象などを可視化するものですが、労働安全衛生では、「安全の見える化」が有名かもしれません。

例えば、危険箇所に危険表示をすること等が代表的な取り組みであり、労働者も比較的参加しやすいのではないのでしょうか。

労働安全衛生管理について、監督署では調査等で訪問する際に、事業場でいろいろな取り組みをされていることを見ております。

その中で印象に思うことは、安全管理は取り組みやすく、積極的に行っている事業場は多いですが、労働者の健康管理などの衛生管理については、安全管理の二の次となっている事業場が少なからずある印象です。

島根は定期健康診断の有所見率が全国平均より高め！



グラフは、定期健康診断の有所見率の推移です。
これを見ると、島根県内の労働者は全国平均より
有所見率が高い状態です。



お酒や食べ物がおいしいからかな？

健康管理は会社が取り組むべき問題なの？

健康管理は
個人の問題でしょ

労働者が体調を崩したり、メンタルヘルスに問題を抱えたまま業務にあたっていると集中力や注意力が下がり、労働災害を引き起こす原因にもなります。また、仕事の生産効率も下がってしまっているかもしれません。

そのため、「労働者の健康管理は、個人の問題ではなく、会社の問題だ」と考えて取り組む必要があります。

健康は他人からは意外と目に見えないことが多いです。少しくらい体調が悪くても頑張ってお出勤して普通に働いたことは誰でもあると思います。

裏面では「健康の見える化」事例をいくつか紹介します。

《表面からの続き》

「健康の見える化」事例 業務開始前の健康状態を見える化

皆様も「今日は少し調子が悪いけど、病院に行くほどじゃないなあ」とそのまま出勤した経験はありませんか。

他者から見えない健康状態を見える化する方法として、業務開始前に労働者に平均台を歩いてもらい、その日の健康状態をチェックする方法をとられている事業場もあります。

労働者によっては、体調が悪くないと思っけていても、平均台をうまく渡れず、今日は気を付けたほうがいいなと本人に対して意識付けすることにもつながります。

平均台を準備するのは場所や費用がかかって大変だという場合は、平らなところで目をつむって片足立ちを30秒程度することでその日の状態を確認するという方法もよいかと思ひます。



「健康の見える化」事例 仕事中の健康状態を見える化

一般的に作業できる環境を整えていても、労働者個人の健康状態によって不快に感じていたり、自分で気が付いていないまま体調を崩すこともあるかもしれません。

こういった本人でも感知できない異変に気付く方法の一例を紹介します。

右の写真は、ある建設現場で使用されていた深部体温を計測する機器です。

これは、腕に巻いて深部体温を計測し、深部体温が一定基準に達すると、アラームと光がでて、該当者は、ただちに空調の聞いた休憩室に行って水分補給をするなど熱中症対策をすることができます。



「健康の見える化」事例 チェックシートの活用

そのほか、チェックシートで健康を数値化している例を紹介します。

心身の状態の見える化：導入されている企業も多数ありますが、心理的負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）も健康の見える化の例の一つです。

睡眠の見える化：厚労省HPで公開している「長時間労働の医師への健康確保措置に関するマニュアル」では、アテネ不眠尺度というものを紹介しています。これは十分に睡眠できているかを確認するものです。

ストレスチェック等の職場におけるメンタルヘルス対策・過重労働対策等



長時間労働の医師への健康確保措置に関するマニュアル



編集後記

監督署では、墜落災害など重大災害があったとき、すぐに現場に行くことがあります。

墜落災害では、直接の原因は、手すりになかったり墜落制止用器具を使用していないことが多いです。しかし、災害発生時に一緒に作業していた労働者に話を聞くと、災害発生前に被災者が意識を失っていたことが疑われるケースに遭遇することがあります。

健康管理と安全管理は密に関係していて、どちらが欠けてもいけないものだと感じております。

皆様も安全管理と併せて健康管理の取り組みを意識してみたいかがでしょうか。

本リーフレットに関するお問い合わせは出雲労働基準監督署まで

所在地：出雲市塩冶善行町13-3 出雲地方合同庁舎4階

TEL：0853-21-1240